2009年3月24日

ジョブ処理を使った同時エクスポート

TNTmips のエクスポート処理および TNTmips のジョブ処理システムでは、コ ンピュータのマルチコアを利用して高速 同時処理を行うことで、何百個もの空間 オブジェクトの大量バッチ処理による エクスポートを効率的に管理できます。 TNT プロジェクトファイルの空間オブ ジェクトを、サポートされている 100 種 以上の外部ファイルフォーマットへエク スポートすることが可能です。また、ど のような TNT 処理においても、多くの種 類の空間ファイル (TIFF/GeoTIFF, MrSID, JPEG, JP2/GeoJP2, Arc Shapefile, DWG 等)を直接選択し利用できるため、エク スポート処理を使って何百個もの MrSID ファイルをGeoIP2ファイルに直接変換 するような、ある種類の外部ファイルを



他の種類のファイルに直接的にバッチ変換することがで きます。

ジョブ処理を使ってエクスポートのバッチ処理を行う には、<エクスポートパラメタ (Export Parameters)> ウィ ンドウで [ジョブの実行 (Run Job)] または [ジョブの保 存 (Save Job)] ボタンを使います。エクスポート処理は、 エクスポートするファイルやオブジェクトごとに別々の ジョブファイルを生成します。各ジョブファイルでは個 別の入力ファイルやオブジェクトおよび指示された出力 ファイルの名前と場所を定義します。

エクスポート処理は多数のファイルやオブジェクトを



<オブジェクト選択>ウィンドウの[全て追加(Add All)]ア イコンボタン(上図黒枠)を使うと、カレントディレクトリ 内の全ての選択可能なオブジェクトやファイル(ウィンド ウ左側パネル)を、右側パネルの選択後のリストに追加す ることができます。[ファイル(Files)]トグルボタン(上図赤 枠)を使うと、選択を特定のファイルタイプに自動で制限 できます。例えば RVCとか最近使用したフォーマットの1 つをトグルボタンで設定したり、またはメニューから希望 するフォーマットを選択したりできます。この例では、ディ レクトリ中の各 TNT プロジェクトファイルにエクスポート するためのラスタが1個づつ含まれています。[全て追加 (Add All)]アイコンボタンを1回押すと、これらの各ラスタ

pgm A plx png rik rsw shp Sto tab tif tiff

🗇 sid 🔻

オブジェクトが右の選択後のリストへ追加されるので、各ファイルの中 で操作してラスタオブジェクトを手動で選択後のリストに加える必要が ありません。 用いて効率的に作業することができるような多くの機能 を提供します。特定のタイプのファイルやオブジェクト が多くのサブディレクトリに分かれて存在しているとき でも、<オブジェクト選択>ウィンドウ上のコントロー ルを使えば、それらのファイルやオブジェクトを自動的 に選択することができます(下図)。名前の自動割り振り 機能もあって、出力ファイル全てに簡単に名前を付ける こともできます(次ページの図)。



<オブジェクト選択>ウィンドウの[全て追加(サブフォルダを含む)(Add all(including subfolders))] アイコンボタンを使うと(上図黒枠)、カレン トディレクトリ内(またはそのサブディレクトリ内)の全ての選択可能 なオブジェクトやファイルが選択後のリストに追加されます。この例で は、MrSIDファイルを JP2ファイルにエクスポートするので、"sid"のト グルボタン(上図赤枠)がオン

になっています。"sid" のトグ ルボタンが存在しているのは、 最近 MrSID ファイルを使ったた めです。選択後のリストの各サ ブディレクトリにはいくつかの

addison_se_NAIPcir_USDA_2007_utm83.aux
addison_se_NAIPcir_USDA_2007_utm83.sid
addison_se_NAIPcir_...7_utm83.sid.aux.xml

補助ファイルと、エクスポートされる1個の MrSID ファイルが含まれて います。[全て追加(サブフォルダを含む)]アイコンボタンを1回押すと、 これら全ての MrSID ファイル(この例では897個)が自動的に右の選択 後のリストに追加され、各サブディレクトリに対して必要な操作をしな くてもかまいません。



< エクスポートパラメタ (Export Parameters)> ウィンドウで [ジョブの実行 (Run Job)] または [ジョブの保存 (Save Job)] ボタンを押すと、エク スポートファイルの出力先フォルダを指定し (右 図の < フォルダ選択 > ウィンドウ)、出力ファイ ル名を指定する (その右の < ファイルセット選 択 > ウィンドウ)プロンプト画面が表示されま す。後者のウィンドウ上で [名前の自動割り振り (Auto-Name)] ボタン (赤枠)を押すと、各出力ファ イルに入力オブジェクトやファイルと同じファイ ル名を簡単に付けることができます。





ending	Done	Failed	Settin	ngs										
Select All	Tasks not running Queu				e Hold Delete Run Now Tasks running Pause				Pause	Resume	Cancel			
Status	Priority	ID			Name						Process ID	Run Time	Progress	_
Running	3	200902	220_13	80635_	Export b	lackwater	falls_sw_	NAIPcir_US	DA_2007	_utm83	748	00:01:48		
Running	3	200902	220_13	80635_	Export b	luefield_ne	NAIPcir_	USDA_2007	utm83.5	sid To bl	749	00:01:46		
Running	3	200902	220_13	80635_	Export b	luefield_m	NAIPcir_	USDA_2007	_utm83.	sid To b	750	00:01:23		
Running	3	200902	220_13	80635_	Export b	luefield_se	NAIPcir_	USDA_2007	utm83.5	sid To bl	751	00:01:23		
Running	3	200902	220_13	80635_	Export b	luefield_sv	NAIPcir_	USDA_2007	_utm83.	sid To b	752	00:01:23		
Running	3	200902	220 13	80635	Export b	lue creek	ne NAIPci	r USDA 20	_ 07 utm8	3.sid To	753	00:01:22		
Running	3	200902	220 13	80635 :	Export b	lue creek	nw NAIPo	ir USDA 20	07 utml	33.sid T	754	00:01:22		
Running	3	200902	220 13	80636	Export b	lue creek	se NAIPci	r USDA 20		3.sid To	755	00:01:22		
Queue	3	200902	220 13	80636	Export b	lue creek	sw NAIPo	ir USDA 20	07 utmi	33.sid T				
Queue	3	200902	220 13	80636	Export b	owden ne	NAIPcir L	ISDA 2007	utm83.s	id To bo				
Queue	3	200902	220 13	80636	Export b	owden nv	/ NAIPcir	USDA 2007	utm83.	sid To b				
Queue	3	200902	220 13	80636	Export b	owden se	NAIPcir L	ISDA 2007	utm83.s	id To bo				
Queue	3	200902	220 13	80636	Export b	owden sv	/ NAIPcir	USDA 2007	utm83.:	sid To b				
Queue	3	200902	220 13	80636	Export b	radshaw i	ne NAIPcir	USDA 200	7 utm83	.sid To				
Queue	3	200902	220 13	80636	Export b	radshaw	w NAIPci	USDA 200)7 utm8	3.sid To				
Queue	3	200902	220 13	80636	Export b	radshaw :	se NAIPcir	USDA 200	7 utm83	sid To				
elected:	0													

< エクスポートパラメタ (Export Parameters)> ウィンド ウで[ジョブの実行 (Run Job)] または[ジョブの保存 (Save Job)] ボタンを押し、出力ファイル名を指定すると、エ クスポート処理が各エクスポート用のジョブファイルを 別々に作成します。[ジョブの実行] は、全ジョブを実行 用の待ち行列に送り、一方[ジョブの保存] は各ジョブ に "停止 (Hold)" ステータスを設定します。後でジョブ マネージャを使って希望のジョブを手動で開放して実行 することができます。ジョブマネージャはジョブのスケ ジュール管理も行え、決まった時間や週の特定の曜日に ジョブ処理を行うよう制限できます。(テクニカルガイ ドの "システム:ジョブ処理の管理 (System : Managing Job Processing)" を参照)。

